

# 乙川リバーフロント地区

(愛知県岡崎市)

- 計画期間 平成27年度～31年度
- 面積 137.6ha
- 交付対象事業費 5,589百万円
- 市人口 383,746人 (地区内人口 6,478人)

**ポイント** 中心市街地では全国でも珍しいと言われるほどの広大なスケールをもつ乙川の清流と豊かな水辺空間を活かし、歴史文化遺産である岡崎城と交通結節点の名鉄東岡崎駅、そして中心市街地へと新たな回遊性を生み出す、「川」から始まるまちづくりを展開している。

**地区概要** 良好な環境を持つ乙川の水辺空間を整備し、歩行空間等を整えるとともに、かわまちづくり支援制度等により民主導の取り組みを誘発させ、また、民間施設の地区内への誘導に取り組む。官民が緊密に連携し、ハード・ソフト両面の施策を総合的に展開し、中心市街地の活性化を図る。

## 目標

大目標：“夢ある次の新しい岡崎”～乙川の水辺空間と歴史文化遺産を活かした観光産業都市の創造～

- 目標①:水辺空間を活かした、安全で安心して歩き、楽しめる場の創造
- 目標②:交通結節点との連携強化による中心市街地への新たな交流・にぎわいの創造
- 目標③:岡崎の歴史文化を活かした魅力の継承と創造

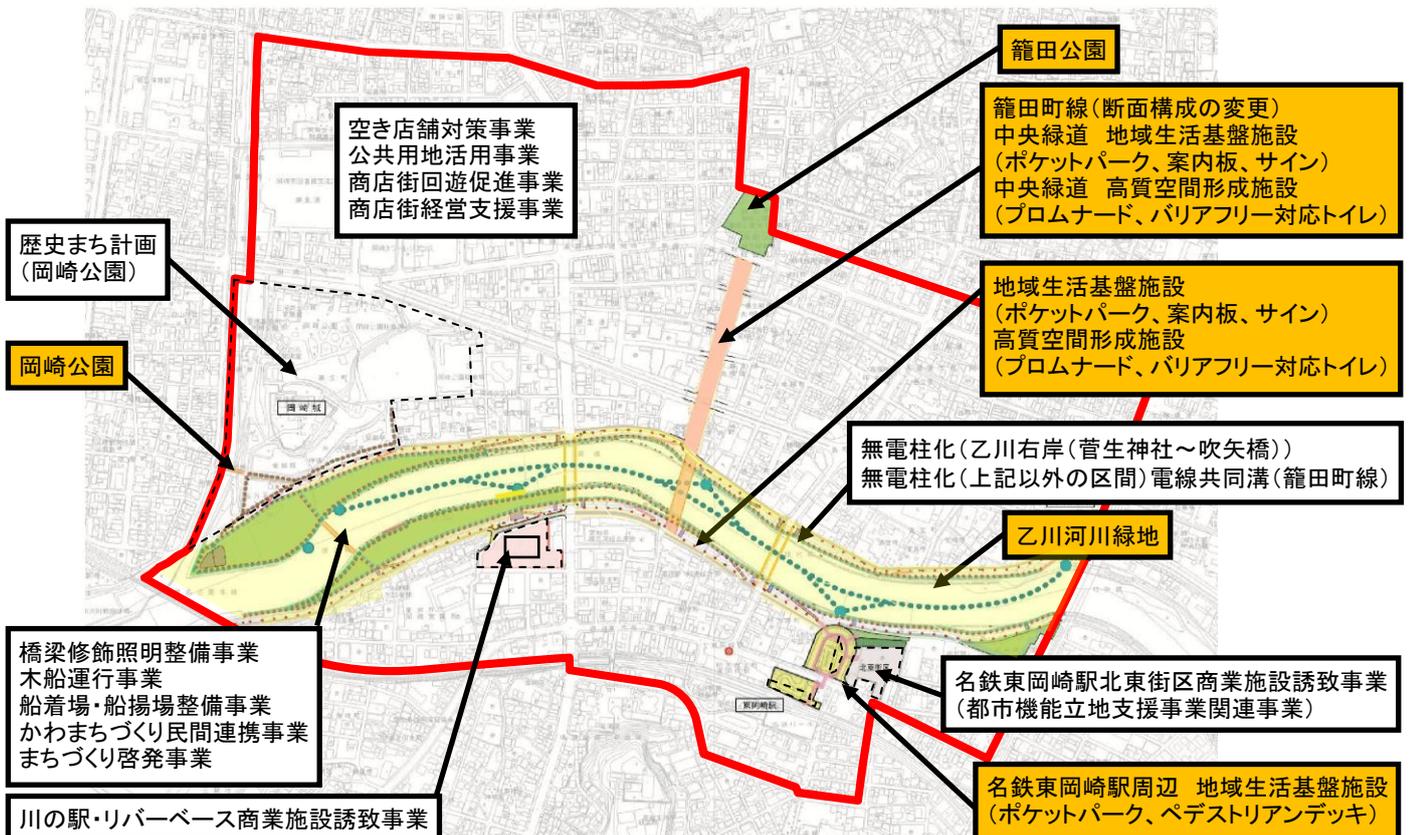
## 指標

水辺空間の回遊性向上、観光産業の育成成果、交通結節点との連携強化等の観点から指標を設定した。

|               |                  |   |                  |
|---------------|------------------|---|------------------|
| 本地区の魅力発揮への満足度 | 60% (H26)        | → | 68% (H30)        |
| 橋梁を往来する人数     | 3,720人/12h (H26) | → | 4,020人/12h (H30) |
| 岡崎城の入場者数      | 20.7万人/年 (H26)   | → | 24.3万人/年 (H30)   |
| 東岡崎駅の乗降客数     | 36,594人/日 (H26)  | → | 39,500人/日 (H30)  |

## 事業内容

基幹事業(5,5891百万円)→道路(都市再構築戦略事業)、公園(都市再構築戦略事業)、地域生活基盤施設(広場、情報板、人工地盤等)、高質空間形成施設(緑化施設、歩行者視線施設)



## 地区の現況と課題

中心市街地に位置する本地区では、一級河川乙川を中心に観光資源や商業施設が集積しているが、近年はこの地域を訪れる人が少なくなっており、商機の衰退の傾向が顕著に現れてきている。ものづくり産業で発展してきた本市に、乙川の水辺空間と歴史文化遺産を効果的に活用する「観光産業」というもう一つの柱を建て、コンパクトな中心拠点の形成とその活性化が求められている。

## 計画策定プロセス

民間で組織されたまちづくりシンクタンクである岡崎活性化本部により、市民や専門家を交えた乙川リバーフロント部会等を 9 回開催しこれらの内容を基に平成 26 年 2 月に「乙川リバーフロント地区整備基本方針策定のための提言書」の作成がなされた。作成にあたっては、「乙川リバーフロントアイデアコンクール」も開催され、2,475 作品の応募があり、市民への啓発と共に、その一部は提言書へ反映がなされている。本計画は、この提言書に基づいて策定を行っている。また、平成 26 年 3 月末から 4 月初旬の 11 日間、市民アンケートを実施、回答者数は 1,653 人に上り、乙川の利活用の意向を調査した。そして、同 10 月には、整備計画案の全戸配布を行い、周知・啓発を強く推し進めている。

## 岡崎市 内田市長のコメント

広大なスケールを持つ乙川の水辺空間は、岡崎市の象徴であり、市民が誇りとする財産である。この水辺空間の活用は、過去 40～50 年にわたり、歴代市長をはじめ市民も長らく議論してきた重要課題だが、この度、国の方針や市政の状況、そして市民の協力といった要素が揃い、新たなまちづくりが動き出した。この乙川の水辺空間の活用をはじめ、東岡崎駅の再開発、中心市街地の空き店舗の活用、岡崎公園や市内の歴史資産の活用といった様々な課題に官民連携で総合的に取り組み、このまちに生まれ育った子ども達が、ふるさと岡崎により大きな愛情と誇りを持って、そんな「夢ある新しい岡崎」の実現を目指していく。

## おとがわプロジェクトデザインコーディネーター 東京藝術大学准教授 藤村龍至氏のコメント

本プロジェクトの特徴は本格的な公民連携型のインフラ利活用や「かわまちづくり」など新しいまちづくり手法が数多く関わっていることに加え、行政と市民の協働を実現するためのまちづくり民間組織の積極的に関わりも挙げられる。私はデザイン・コーディネーターとして 2015 年より「おとがわデザインシャレット」「官民連携調整会議」などの意見交換の場をコーディネートさせて頂いているが、まちづくり民間組織が全国から集めた専門家 の協力のもと、行政の内外で活発な意見交換が展開され、当初の計画が次々と上書きされ、より豊かな内容へと育っていく様子に感動を覚える。背景には 1990 年代末からの行政との協働が育んだ信頼関係があると言えるだろう。今後の展開にも期待したい。

## かわまちづくりアドバイザー 水都大阪パートナーズプロデューサー 泉英明氏のコメント

モノづくり工業都市岡崎のまちの中心を悠々と流れる乙川。旧岡崎城エリアを含むエリアで、まちの歴史や自然が感じられる場所を市民自らが使いこなし、豊かな暮らしのシーンと新たな産業を生む取り組みがスタートしている。乙川の河川空間から使い方アイデアやその担い手を発掘しまちに拡げていこうという「おとがわ！ンダーランド」プロジェクト（かわまちづくり支援制度を活用した取り組み）は、「つくる」より「つかう」を先行する試み。一発イベントでなく、市民自らがまちを守り使いこなししている様子を、来街者が体験しに来たくなるような新たな観光シーンを目指し、これからも動いていこう。



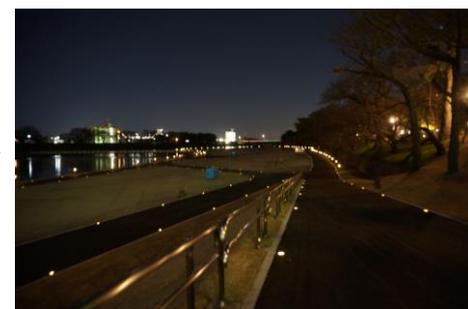
▲フォーラムの開催



▲かわまちづくり支援制度への登録



▲泰平の祈りプロジェクトの開催



▲乙川河川敷の整備(遊歩道)



▲乙川プロムナード(乙川堤防道路)